

令和7年度
丹波市立中央小学校
学校経営方針



令和7年4月

《信頼される学校の創造》

地域とともに笑顔あふれる中央っ子！

令和7年度が始まりました。中央小学校の子どもたちには、毎日を楽しみに登校してほしいと願っています。そのためには、学校での学びや活動が充実し、勉強が面白い、先生も大好きなど、登校への意欲や安心感を高めていくことが大切です。また、地域も一緒になり、子どもたちを中心とした取組を行うことで、安心できる場、信頼できる大人を広げ、子どもたちの笑顔と、ワクワク感で学校生活を送ることができます。

学校教育目標

よりよい自分をめざし、ともに成長する児童の育成

～ 自律 × 挑戦 × つながり力 ～

子どもたちが、毎日を楽しみに登校できるようにするには、自分の成長を実感し、もっと自分自身を高めていきたいと行動できることが大事だと考えます。

考えて行動する力を身につけ、新しいことにも挑戦しようとする意欲を高め、さらに、周りの人の良さに気づいたり、人から学んだりすることで、自分だけでなく仲間と共に成長していく児童を育てていきます。

そして、子どもたちが社会で生きて働く力を身につけられるよう、「自律する力」「挑戦する力」「人とつながる力」の育成を図っていきます。

めざす学校像

- ☆一人ひとりを大切にし、やる気を育てる学校
- ☆明るいあいさつが響き、豊かな心を育てる学校
- ☆家庭や地域と連携し、信頼される学校

めざす教師像

- ☆課題に対し、主体的・協働的・組織的に解決しようとする教師
- ☆家庭や地域の声に耳を傾け、連携して教育課題の改善に努める教師
- ☆教育の専門家として確かな力量を高めようとする教師

めざす児童像

- | | |
|---------|--|
| ☆自律する子 | 自分で考え、行動できる子
学びを楽しめる子 |
| ☆挑戦する子 | 失敗を恐れず、挑戦する子
最後まであきらめずがんばる子 |
| ☆つながれる子 | 互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子
他者への感謝の心が持てる子 |

めざす学校と教師の姿

1 一人ひとりを大切にし、意欲を育てる学校

(1) 学校は安心できる居場所

学校は、子どもたちの未来を創るところです。そのためには、どの子も安心して学べる学校・学級であることが大前提です。「自分大好き、学校大好き、地域大好き」といえる児童を増やし、子どもたちの自己肯定感を高めるとともに、一人ひとりの個性を認め合い、すべての児童にとって安心できる居場所となる学校や学級をつくっていきます。

- ◆児童同士、児童と教師、学校と保護者、学校と地域の信頼関係の構築
- ◆日々の教師の姿・まなざしの意識化

(2) 自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める道徳教育の推進

道徳教育は、子どもたちがよりよい生き方を考え、実践する力を育むために重要な役割を果たします。自分の良さや課題に気づき向上しようとする力や困難に直面しても乗り越えようとする強い心、さらに他者の気持ちを理解し、支え合うことの大切さを学ぶなど、授業の中で、家庭や地域と連携しながら、児童一人ひとりが自分らしく成長できるよう支えていきます。

- ◆考え、議論する道徳教育（対話を大事に、多面的・多角的に考える授業）
- ◆児童の主体的な学びを促す（自分事として考え、実生活に結びつく授業）

(3) 主体的・対話的で深い学びのある授業の創造

自分の考えを持つこと、そして、対話によって、考えを広げ・深めていく、学ぶことの面白さに気づける児童を育てます。対話は、他者との対話だけでなく、自己と向き合う個人内対話も含め、対話がある授業をめざすとともに毎日の授業づくりを通して、やる気を育てていきます。

- ◆「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ◆協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。



【指標】「新しい課題 学習に取り組む時は楽しみだ」と回答する児童：R675%⇒80%以上

「学習意欲を高める授業づくりに努めている」と回答する教師の割合：R685%⇒95%以上

2 明るいあいさつが響き、豊かな心を育てる学校

(1) 不登校の未然防止の取組といじめ解消率 100%

登校しにくい児童に寄り添いながら、社会的自立に向けた取り組みを進めるとともに、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に取り組みます。

また、いじめは、どの学校にも、どの学級にも、そしてどんな時にでも起りうるという認識に立ち、いじめの早期発見、早期対応はもちろんのこと、日常の学校生活の中での仲間づくりを大切にし、いじめを許さない人間関係づくりに取り組みます。

- ◆未然防止、早期発見・早期対応の組織的対応、居場所のある学級づくり
- ◆サポートルームの充実
- ◆校内不登校対応マニュアルの共有

(2) 人権同和教育の充実

人権教育の目標は、「自分だけでなく他人の人権も尊重されなくてはならない」という意識を自然と持てる人間を育てることにあります。人権に関する知識や人権感覚を養い、自分や他者も大変できる児童の育成をめざし、本校が取り組んでいる生活科・人権総合学習を充実させるとともに人権教育を核にした学年経営に取り組んでいきます。

- ◆学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
- ◆地域と連携した人権教育の推進

(3) あいさつからつながりを広げる児童の育成

あいさつは人と人をつなぐ大事なきっかけであり、良好な人間関係を築いていくもととなります。児童会活動や教職員の啓発など、学校全体で取り組むと同時にPTAや地域も巻き込んで子どもたちの健全な育成を図っていきます。

また、人とのかかわり方を学び、良好な関係を築く力を育てていきます。

- ◆あいさつ目標の継続した取組
- ◆家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。
- ◆全校・全学年で取り組む SST



【指標】「家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている」と回答した保護者の割合：R6:70%⇒75%以上

「相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができる」と回答した児童の割合：R6:89%⇒90%以上

3 家庭や地域と連携し、信頼される学校

(1) コミュニティ・スクールの活用

どのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、行動を共にすることが大切です。コミュニティ・スクールを活用し、保護者、地域からの意見を学校教育に活かし、積極的に地域人材の活用を進めます。

- ◆学校運営協議会の開催
- ◆地域ボランティアの拡大

(2) ホームページ、地域施設を活用した積極的な情報発信

めざすべき教育の姿や学校が抱える課題については、家庭、地域とともに考えることが必要です。そのため、情報を積極的に発信します。

- ◆あんしんメールとホームページを中心とした情報発信
- ◆「校長室から」「学年の様子」に児童や学校の様子を配信
- ◆ひかみ成松交流館で作品掲示

【指標】「学校の様子がよくわかる」と回答した保護者の割合：R6:64%⇒80%以上

4 先生たちが生き生きと働き、学びを楽しむ職員室

(1) 課題に対し、主体的・協働的・組織的に解決しようとする教師

子どもたちに学び合い、支え合いを指導するには、我々教師自身がその姿にならなければなりません。私たちは、共に学び、共に支え合い、そして仕事を楽しむ職員組織を創ります。

- ◆気づいた時に気づいたことをする姿勢、困りごと・悩みを話せる職員室

(2) 家庭や地域の声に耳を傾け、連携して教育課題の改善に努める教師

- ◆自分の悩みやクラスの悩みを職員の悩みにする姿勢

(3) 教育の専門家として確かな力量を高めようとする教師

- ◆校内研修において一人一回発言
- ◆研修システムを活用し、自己の目標に向けて自己研鑽する教師

(4) ワークライフバランスを大切にした業務改善

子どもたちに向き合うゆとりをつくるために、業務改善がこれまで以上に必要です。そのため、既存のシステムにとらわれない、効果的な時間の使い方について考えていきます。

- ◆タブレット等を活用した情報共有システム
- ◆ガルーンの有効活用により、会議時間 1 時間以内
- ◆定時退勤日（毎週水曜日）の完全実施
- ◆学期毎にリフレッシュを目的とした半年休を取得

【指標】 前年度同期と比較した超過勤務時間：R6:20%増⇒5%減

自律する子の育成

～自分で考え行動できる子 学びを楽しめる子～

1 自分で考え、判断し、行動できる力の育成

◆複数学年複数担任制、教科担任制（高学年・中学年）の実施

複数学年複数担任制で期待する効果

- 自分たちでクラスを創る意識
- 担任まかせにならない当事者意識
→個々の自主・自律心の育成
「まずは自分達で考えよう」
→自信・自尊心の向上
「自分達でもできる！」
- 複数の教師で子どもたちを育てる
- 多くの先生とのかかわりを楽しむ子

令和7年度の担当教科分担

高 学 年	A 教諭	B 教諭	C 教諭	D 教諭
	国語 12h 図工 4.5h	算数 15h 体育 4h	音楽 3h 家庭科 4.5h 外国語 6h	社会 9h 理科 9h
※総合・道徳・特別活動は、交代で担当				
※教頭書写 3h				

- ◆児童会・委員会活動の充実
- ◆ICT 教育の推進とタブレットの有効活用
- ◆体力向上に向けた全校プロジェクト『ムキムキタイム』『体幹づくり』の実施
- ◆幼児教育の視点を活かした低学年期のスタートカリキュラムの実施
- ◆学び方指導「けとふれ」学習

けいかく⇒トライ⇒ふりかえり⇒れんしゅう



1年生 1学期カリキュラムの例

今週のテーマ	ちゅうおうしょうがっこうを たんけんしよう！
朝の時間	・ 朝の用意
1時間目	【ひなかよしタイム】…集団の中で安心をつくる時間 ・ 選択活動（読書、プリント、工作、ダンス、お絵描き、遊具遊び、生き物探しなど） ・ 集団活動（手遊び、読み聞かせ、歌、ダンス、右脳ゲームなど）
2時間目	・ 自由遊び
3時間目	【★わくわくタイム】…生活科を中心とした合科的な活動 ・ 「部屋の数を数えよう」「探検の順番を考えよう」（算数） ・ 「気持ちよく挨拶しよう」「自己紹介カードを作ろう」（国語、図工） ・ 「グループの友だちと力を合わせよう」（道徳）
4時間目	・ 自治的な当番、係活動（給食、のびのびタイム） ・ 異学年との交流活動（ムキムキタイム、縦割り班掃除、集会など）
5時間目	【ぐんぐんタイム】…友だちとの関わりも活用した教科学習

【指標】「自分で考えて行動している」と回答した児童の割合：R6:91%⇒90%以上

「家庭でも一人でできることが増えてきた」と回答した保護者の割合：

R6:89%⇒85%以上

挑戦する子の育成

～失敗を恐れず、挑戦する子 最後まであきらめずがんばる子～

1 確かな学力の育成

- ◆学校行事の充実と行事を通した非認知能力の育成
- ◆単元を見通した授業づくりの充実
- ◆学年経営計画に基づく学級活動の充実
- ◆読書活動の推進
 - ・教科担任制（3年生以上）による授業
 - ・校内研修の推進
 - ・プログラミング教育の推進
 - ・毎月23日「家読（うちどく）の日」に家庭読書を実施



教科担任制で期待する効果

- 教科特性を活かした授業の提供
- 1学年上、1学年下のメニューの提供
 - ex.発展メニュー 振り返りメニュー
 - ⇒「みんな同じことを、同じペースで、同じようなやり方」からの脱却
- 教材研究の時間短縮

2 特別活動など児童の主体的な取組の推進

- ◆特別活動の取組の中で、自己肯定感や自己有用感の醸成
- ◆児童会委員会活動の中で、全校生が楽しくなる活動の企画・運営
- ◆縦割り班活動・縦割り班掃除を通したリーダーの育成
- ◆あいさつ・感謝する機会の増加



3 粘り強く、最後まで取り組める子の育成

- ◆勤労奉仕・清掃活動の徹底（しんどいことも乗り越える力）
- ◆感情コントロールによる良い人間関係の構築
- ◆自己調整能力により、自分の現状を把握し、目標達成にむけて行動する力の育成

【指標】「分かることやできることが増えてきた」と回答した児童の割合：R6:95%

⇒90%以上

「新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ」と回答した児童の割合：R6:75%

⇒80%以上

つながれる子の育成

～互いの良さを認め合い関わりの中で学べる子
他者への感謝の心が持てる子～

1 あたたかい言葉がけ、やさしい行動の日常化

- ◆人権教育を通した人を思いやる心の醸成
- ◆特別支援教育を基盤にすべての子どもたちにとって安心できる居場所づくり
- ◆コミュニティ・スクールによる地域人材活用
- ◆対話のある授業づくりの充実
- ◆多様性を認め合える仲間づくり
- ◆多文化共生教育の推進
 - ・月毎のあいさつ目標の設定とPTAと連携した挨拶運動
 - ・「ありがとう」と言える機会の増加
 - ・年間を通じた縦割り班掃除



2 他者の考え方を受け止め、自分に活かせる力の育成

- ◆『ジャンボタイム』を活用した自治的活動の充実
- ◆他者（他学年、地域、海外等）への情報発信
- ◆生き方を育む校区事業『かがやきタイム』
 - ・ネットでイングリッシュによる海外の人との交流
 - ・かがやきタイムでの講師や地域の「人・もの・こと」とのつながり

【指標】「家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつしている」と回答した児童の割合：R6:82%⇒90%以上
「自分には良いところがある」と回答した児童の割合：R6:82%⇒90%以上